

# Q 企業は利益を上げることが最優先なの?



「社会的な問題解決につながる事業が求められています」

フェアトレードを応援する街、名古屋。

「名古屋はフェアトレーダータウンです」と言われて、ピンと来る人はフェアトレード通。海外の環境や貧困問題にかなり関心のある人といえます。フェアトレードとは、発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で取引することで、生産者の持続的な生活向上を支える仕組み。私たちの身近なところではコーヒーやチョコレートなどがフェアトレード商品として売られています。私の研究室では、近年注目されている環境問題や社会的責任、持続可能性という観点に対して企業がどのように取り組んでいるのかを、このフェアトレードを一つの例として研究しています。



身近なことを出発点に、海外の問題に目を向けよう。

基本的に企業は合理的な意思決定のもと、いかに利益を上げ、株主から評価されるかを重要視しています。これまでの経営学では確かにその通り。しかし数十年先を考えたときには、単に利益を上げれば企業が存続していくかといえばそうではなくさう。最近では、社会的な問題の解決につながる形こそが新たなビジネスチャンスになり、ひいては利益を上げることになるという見方がされています。学生が消費者を対象に実施したアンケー

トのなかで、海外での貧困問題や国内の震災のニュースを見たときに、自分の問題として考えられる人の方がフェアトレード商品を購入するという結果がありました。こういった行動は「倫理的消費」と呼ばれるように、大切なことは、地域や国境を越えた人たちの生活や暮らしに想いを巡らせ、想像すること。ぜひ皆さんにも、自分の身の回りのモノやコトから、海外で起こっている問題にまで関心を持てるようになることを期待しています。



私の学生時代

PROFILE

東田 明 先生

「高校までの授業では、先生の質問に対して正解を提示することが求められますよね。でも大学では逆に問い合わせることが重要」と質問力を養うことの重要性を説く東田先生。そのためには訓練することが大事なことがあります。



もっと勉強した方がいいと友人からのアドバイス。

学生のときに同級生からもらった腕時計。同級生といつも60歳を超えた、税理士として働きながら学んでいた社会人学生です。その友人が教えてくれたのは勉強の大切さ。研究職に就くことになった出発点に大きな影響を与えてくれた友人です。

